

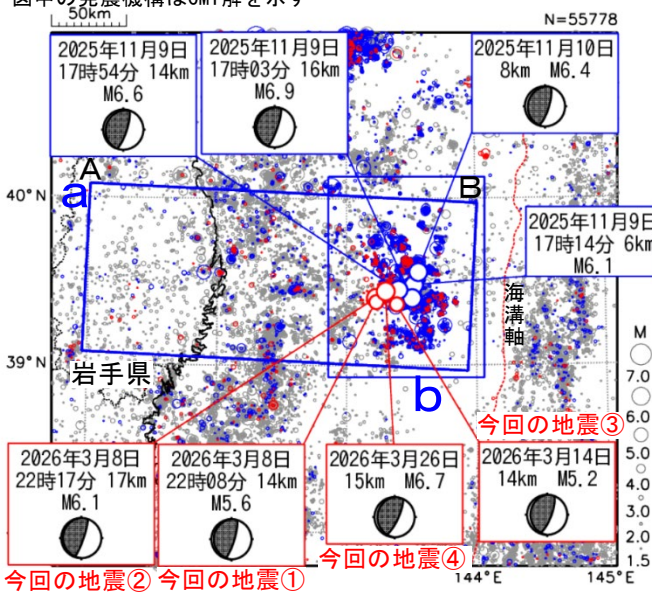
3月8日、14日、26日 三陸沖の地震

(2025年11月からの三陸沖の地震活動)

震央分布図

(2020年9月1日～2026年3月31日、
深さ0～140km、M \geq 1.5)

- 2020年9月1日～2025年10月31日
 - 2025年11月1日～2026年2月28日
 - 2026年3月1日以降
- 図中の発震機構はCMT解を示す



2026年3月8日22時08分に三陸沖の深さ14kmでM5.6の地震(最大震度3、図中①)が発生した。また、同日22時17分にはほぼ同じ場所の深さ17kmでM6.1の地震(最大震度3、図中②)が発生した。

さらに、3月14日04時55分にこれらの地震の近傍でM5.2の地震(深さ14km、最大震度3、図中③)が発生した。

その後、3月26日23時18分にこれらの地震の近傍でM6.7の地震(深さ15km、最大震度4、図中④)が発生した。

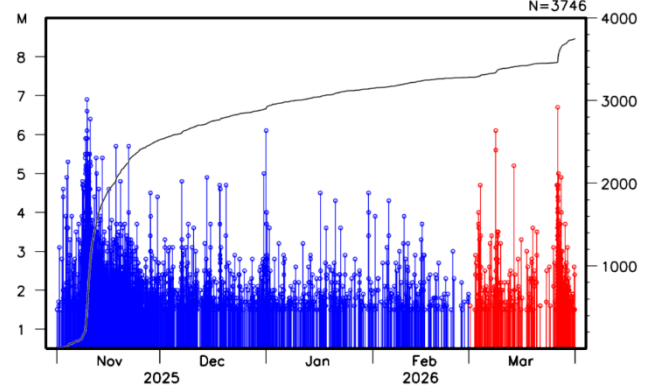
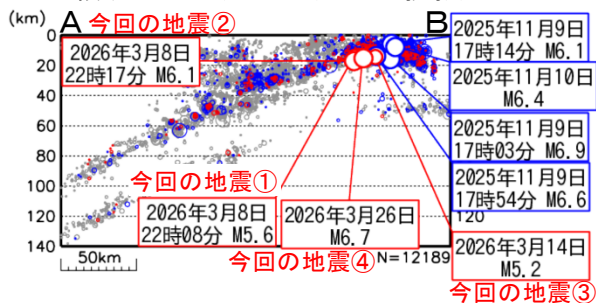
これらの地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

今回の地震の震央付近(領域b)では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、11月9日にM6.9の地震(最大震度4)が発生して以降地震活動が継続している。領域bでは、3月1日から31日にかけて震度1以上を観測する地震が12回(震度4:1回、震度3:3回、震度2:1回、震度1:7回)発生した。

領域b内のM-T図及び回数積算図

(2025年11月1日～2026年3月31日、深さ0～80km)

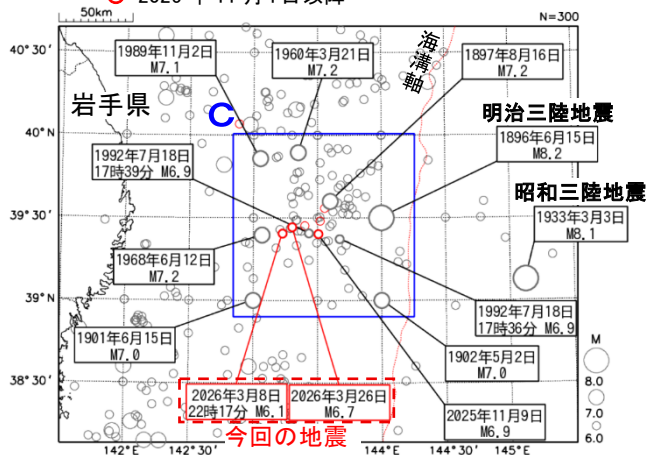
領域a内の断面図(A-B投影)



震央分布図

(1885年1月1日～2026年3月31日、
深さ0～90km、M \geq 6.0)

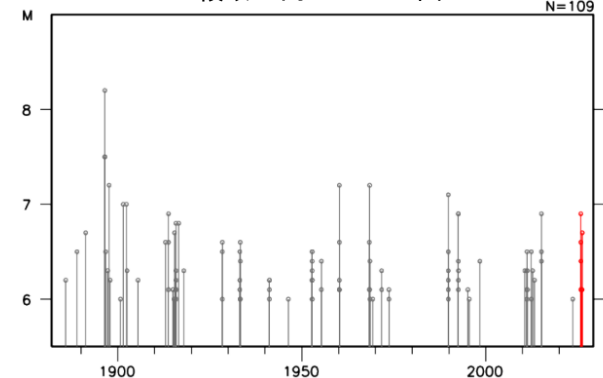
- 1885年1月1日～2025年10月31日
- 2025年11月1日以降



震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。

1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0以上の地震が時々発生している。1896年6月15日にはM8.2の地震(明治三陸地震)が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域c内のM-T図



宇津徳治(1982):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年,震研彙報,56,401-463.

宇津徳治(1985):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年(訂正と追加),震研彙報,60,639-642.

茅野一郎・宇津徳治(2001):日本の主な地震の表,「地震の事典」第2版,朝倉書店,657pp.

気象庁作成